

(2) 社会

ア 個々の問題の概要及びその通過率

—評価の観点—	
思・判・表	社会的な思考・判断・表現
技能	資料活用の技能
知・理	社会的事象についての知識・理解

(◇：「活用」に関する問題)

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	活用	評価の観点	設定通過率(%)	通過率(%)
地理(1)ア	1	(1) 中心からの距離と方位が正しい地図において、大陸と海洋の位置関係を読み取り、大西洋を指摘することができる。		知・理	65.0	88.4
地理(1)ア		(2) 中心からの距離と方位が正しい地図から、読み取れる内容として適切でないものを指摘することができる。	◇	技能	40.0	46.4
地理(2)ア		(3) 日本とニューヨークの時差を計算し、ニューヨークが1月1日午前0時のときの日本時間を指摘することができる。	◇	技能	35.0	41.2
地理(1)イ		(4) 雨温図から冷帯であることを読み取り、冷帯の地域に住む人々の生活の様子を指摘することができる。	◇	思・判・表	50.0	66.2
地理(1)イ		(5) 宗教の特色をまとめたカードから、イスラム教を指摘することができる。		知・理	70.0	86.2
地理(1)エ	2	イの選択 四つの資料から適切な資料を選択し、読み取ることを通して、選択肢の正誤を判断することができる。	◇	思・判・表	50.0	66.5
地理(1)エ		エの選択 四つの資料から適切な資料を選択し、読み取ることを通して、選択肢の正誤を判断することができる。	◇	思・判・表	70.0	66.4
地理(2)ア	3	(1) 資料から、公海を指摘することができる。		知・理	70.0	21.9
地理(2)ア		(2) 地図から、中部地方を指摘することができる。		知・理	60.0	55.2
地理(1)ウ	4	(1) 二つの資料から森林の減少とアマゾン開発を関連付けて、森林減少の理由を説明することができる。	◇	思・判・表	50.0	64.2
地理(1)ウ		(2) イギリスとギリシャに関する文の中から、ギリシャに関する文を指摘することができる。		知・理	40.0	26.8
地理(1)ウ		(3) 資料から、中国のデータを指摘することができる。	◇	思・判・表	50.0	66.5
地理(1)ウ		(4) 資料から、羊の飼育がさかんに行われている地域の降水量を指摘することができる。	◇	技能	60.0	72.1
地理(1)ウ		(5) アメリカ合衆国の州別に見た人口構成の資料を読み取り、適切でないものを指摘することができる。	◇	思・判・表	50.0	61.6
歴史(1)ア	5	(1) A 年表にあてはまる、社会の仕組みによる時代区分を指摘することができる。		知・理	50.0	76.0
歴史(1)ア			B 年表にあてはまる、政治の中心地による時代区分を指摘することができる。		知・理	70.0
歴史(1)ア		(2) 織田信長が行ったことを指摘することができる。		知・理	70.0	87.8
歴史(1)ア		(3) 他のカードを参考にして、時代の特色を表現することができる。	◇	思・判・表	50.0	58.2
歴史(2)ア	6	(1) 資料1中の国名を、資料3から指摘することができる。		知・理	60.0	51.3
歴史(2)ア		(2) 弥生時代の特徴を表した文章に当てはまる語句の組み合わせを指摘することができる。		知・理	60.0	83.4
歴史(2)ア		(3) 資料を参考に、邪馬台国の女王の名を指摘することができる。		知・理	70.0	96.6
歴史(2)イ	7	(1) 資料が十七条の憲法であることを指摘することができる。		知・理	70.0	81.1
歴史(2)イ		(2) 資料を参考に、班田収授法であることを指摘することができる。		知・理	60.0	52.5
歴史(2)イ		(3) 平安時代の政治と外交に当てはまらない文を指摘することができる。		知・理	50.0	52.4
歴史(2)ウ		(4) 資料が、飛鳥時代、奈良時代、平安時代のいずれの時代の文化財であるかを指摘することができる。	◇	思・判・表	40.0	72.5
歴史(3)ア	8	(1) A 資料中Aが執権であることを指摘することができる。		知・理	60.0	39.2
歴史(3)ア			B 資料中Bが管領であることを指摘することができる。		知・理	50.0
歴史(3)イ		(2) 二つの資料を読み取り、鎌倉時代の農村の様子として適切なものを指摘することができる。	◇	思・判・表	50.0	65.5
歴史(3)ア		(3) 資料から琉球王国であることを読み取り、当時の琉球王国の様子を指摘することができる。	◇	思・判・表	60.0	65.3
歴史(3)イ	(4) 資料が水墨画であることを指摘することができる。		知・理	70.0	83.0	

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	設定 通過率	東青管内			西北管内					
				青森市	東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡		
1	(1)	三大洋の理解～大西洋	65.0	89.3	89.1	93.2	83.8	82.3	83.6	85.6	
	(2)	地図の読み取り～正距方位図法	40.0	47.7	47.8	45.2	45.1	47.7	48.0	40.6	
	(3)	時差の計算～日本とニューヨーク	35.0	45.2	45.2	45.2	38.1	36.9	48.4	33.3	
	(4)	雨温図の読み取りと活用～冷帯	50.0	70.6	70.4	72.6	63.6	63.3	66.9	61.8	
	(5)	三大宗教の理解～イスラム教	70.0	86.8	86.7	88.4	83.1	82.5	83.3	83.7	
2	イの選択	複数資料の読み取り	50.0	65.0	65.2	62.3	66.6	66.8	68.3	65.5	
	エの選択	複数資料の読み取り	70.0	68.5	69.4	52.7	65.9	64.0	65.5	68.2	
3	(1)	領域の理解～公海	70.0	23.1	23.3	19.9	22.8	12.4	35.6	26.0	
	(2)	地方区分の理解～中部地方	60.0	56.8	56.8	56.2	54.7	54.4	54.8	54.9	
4	(1)	複数資料の読み取り～ブラジル	50.0	64.6	64.6	63.7	63.7	63.3	68.7	60.9	
	(2)	国の特色の理解～ギリシャ	40.0	28.9	29.1	25.3	25.6	23.6	22.4	29.6	
	(3)	統計資料の読み取り～中国	50.0	67.4	67.5	65.8	62.3	61.5	62.3	63.1	
	(4)	主題図の読み取り～オーストラリア	60.0	71.8	71.6	74.7	71.5	74.1	71.2	68.9	
	(5)	主題図の読み取り～アメリカ	50.0	63.8	64.1	58.9	59.7	58.7	58.7	61.4	
5	(1)	A	時代区分の理解～中世	50.0	81.0	80.8	83.6	74.2	68.0	88.3	72.1
		B	時代区分の理解～江戸	70.0	86.4	86.3	89.0	84.2	82.7	86.8	84.3
	(2)	歴史上の人物の理解～織田信長	70.0	89.3	89.2	91.8	87.2	87.0	86.1	88.2	
	(3)	時代区分の特色の表現～中世・近世	50.0	62.7	62.9	60.3	58.5	49.7	80.4	54.5	
6	(1)	東アジアとのかかわりの理解～後漢	60.0	53.6	53.9	50.0	49.7	49.7	54.1	47.0	
	(2)	弥生時代の理解～生活	60.0	83.4	83.5	81.5	81.7	83.1	84.3	78.5	
	(3)	弥生時代の理解～卑弥呼	70.0	96.8	96.8	97.9	97.3	96.9	98.6	97.0	
7	(1)	律令国家の確立までの過程～聖徳太子	70.0	84.9	85.0	83.6	72.9	62.5	80.4	79.2	
	(2)	律令国家の確立までの過程～班田収授法	60.0	62.4	62.9	55.5	40.2	29.5	41.6	50.6	
	(3)	平安時代の政治と外交の理解	50.0	56.3	56.1	60.3	48.9	41.1	53.7	54.1	
	(4)	古代の文化の理解～飛鳥・奈良・平安	40.0	71.8	72.0	68.5	71.5	67.8	76.5	72.3	
8	(1)	A	幕府の仕組みの理解～鎌倉時代	60.0	48.6	49.8	28.8	32.7	24.8	35.9	39.1
		B	幕府の仕組みの理解～室町時代	50.0	34.7	35.3	24.0	21.2	13.6	22.8	28.1
	(2)	史料の読み取り～鎌倉時代	50.0	67.4	67.6	65.1	62.6	65.2	62.6	59.9	
	(3)	東アジアの国際関係の理解～琉球	60.0	67.7	68.2	60.3	61.1	57.8	64.8	62.2	
	(4)	中世の文化の理解～水墨画	70.0	83.5	84.6	66.4	80.4	82.9	74.4	81.3	
教科全体（全小問の総正答数÷全小問の総解答数）			56.7	66.0	66.2	63.0	61.0	58.5	64.3	61.7	

(単位：%)

	中 南 管 内				上 北 管 内			下 北 管 内			三 八 管 内		県全体		
	弘前市	黒石市	平川市	中・南郡	十和田市	三沢市	上北郡	むつ市	下北郡	八戸市	三戸郡				
87.2	88.1	85.6	89.7	82.6	88.8	88.3	87.7	89.4	89.8	91.4	83.3	90.1	89.9	91.0	88.4
45.1	45.8	46.1	43.1	42.3	45.7	47.7	45.6	44.5	45.9	49.6	31.1	47.3	48.0	44.6	46.4
39.0	40.5	48.4	35.1	24.9	41.3	45.0	39.2	39.6	41.7	43.8	33.3	40.3	40.6	39.5	41.2
63.7	64.7	61.4	61.5	63.4	65.2	63.8	68.7	64.8	65.4	66.9	59.1	65.9	66.7	62.7	66.2
85.8	88.8	83.7	79.8	80.0	85.0	85.2	81.9	86.0	87.2	87.6	85.6	88.0	88.2	87.0	86.2
61.8	63.5	62.1	57.6	57.4	68.5	70.4	71.1	66.2	69.7	70.5	66.7	69.3	70.0	66.7	66.5
63.0	65.6	54.6	56.5	66.8	65.5	70.8	65.5	62.0	61.6	64.1	51.5	69.0	69.6	67.1	66.4
19.6	19.8	20.9	18.3	18.1	19.0	25.6	19.9	14.4	12.7	12.8	12.1	26.4	25.5	29.8	21.9
55.9	55.5	58.2	57.3	54.0	51.0	53.9	54.4	47.7	57.2	58.6	51.5	55.6	54.6	59.6	55.2
61.6	60.8	65.0	67.9	55.5	66.0	66.3	67.3	65.3	55.6	57.0	50.0	67.0	65.8	71.1	64.2
25.9	26.9	22.5	24.0	26.8	25.0	28.0	24.0	23.5	24.1	23.3	27.3	28.0	28.7	25.4	26.8
68.0	69.5	68.0	61.5	67.5	66.6	66.3	65.5	67.3	69.0	70.7	62.1	65.8	66.4	63.4	66.5
72.9	73.8	69.6	76.0	69.4	69.7	73.9	66.1	68.4	70.6	71.1	68.9	74.2	74.2	74.4	72.1
60.4	61.2	62.1	58.4	57.0	60.6	61.9	62.3	59.0	61.6	64.7	49.2	61.9	62.3	60.3	61.6
73.0	74.7	76.8	72.5	61.1	76.4	77.7	75.7	75.8	82.8	83.3	81.1	72.3	70.3	79.9	76.0
77.3	77.7	85.9	75.2	67.9	83.5	80.2	88.3	83.8	78.0	80.1	69.7	82.7	82.6	83.2	82.6
84.6	84.7	85.0	88.5	80.0	89.4	88.7	91.8	89.0	84.8	87.6	73.5	88.8	88.6	89.4	87.8
56.3	59.0	63.1	48.1	44.5	57.1	59.7	58.5	54.8	57.5	62.8	36.4	55.9	54.9	59.8	58.2
47.9	46.1	55.9	48.9	46.0	53.6	57.7	51.2	51.9	47.4	49.2	40.2	51.8	51.6	52.8	51.3
81.6	82.5	77.8	80.9	82.6	84.5	84.7	84.5	84.5	86.0	87.6	79.5	84.3	84.2	85.0	83.4
96.4	96.4	96.1	96.9	96.2	96.8	97.7	95.9	96.5	96.7	96.4	97.7	96.2	96.1	96.5	96.6
78.2	79.2	78.1	75.6	76.2	79.6	79.8	77.8	80.1	89.6	90.0	87.9	82.6	82.8	81.9	81.1
46.5	46.5	43.1	56.5	40.4	49.5	58.1	43.0	46.4	67.3	74.6	37.9	51.6	54.4	41.5	52.5
47.1	49.6	43.1	43.1	44.2	51.8	49.9	54.7	51.9	53.2	56.6	39.4	54.7	53.9	57.8	52.4
72.7	72.7	73.2	71.8	72.8	71.2	70.8	72.2	71.1	75.3	75.8	73.5	73.7	74.1	72.2	72.5
31.0	27.7	48.4	30.5	26.4	40.2	53.4	28.9	35.9	42.9	44.4	37.1	38.0	38.4	36.4	39.2
22.9	21.4	34.0	27.1	12.8	19.4	24.7	10.8	19.4	27.0	29.9	15.2	26.0	25.9	26.7	25.9
62.1	64.3	60.1	59.9	56.6	68.6	71.3	69.3	66.7	61.9	63.5	55.3	66.6	66.7	66.2	65.5
61.5	63.9	54.9	62.6	57.0	64.8	68.3	59.6	64.4	63.9	65.6	56.8	68.5	68.7	68.0	65.3
84.8	87.8	74.5	87.8	79.6	83.8	83.0	91.2	81.5	81.2	82.1	77.3	82.1	80.3	88.8	83.0
61.1	61.9	61.9	60.4	57.0	62.9	65.1	62.4	61.7	63.6	65.4	56.3	64.2	64.1	64.3	63.4

ウ 内容・領域別結果の概要

内容・領域	問題数 (問)	通過率の高かった 問題	通過率の低かった 問題	各内容・領域 の通過率(%)	設定通過率 (%)
世界の様々な地域	11	1(1)、1(5)	1(2)、4(2)	64.6	54.1
日本の様々な地域	3		1(3)、3(1)	39.4	55.0
歴史のとらえ方	4	5(1)A、5(1)B、 5(2)		76.1	60.0
古代までの日本	7	6(2)、6(3)、 7(1)、7(4)		70.0	58.6
中世の日本	5	8(4)	8(1)A、8(1)B	55.8	58.0

エ 評価の観点別結果の概要

評価の観点	問題数 (問)	通過率の高かった 問題	通過率の低かった 問題	各観点の 通過率(%)	設定通過率 (%)
社会的な思考・ 判断・表現	10	7(4)		65.3	52.0
資料活用の技能	3		1(2)、1(3)	53.2	45.0
社会的事象につ いての知識・理解	17	1(1)、1(5)、 5(1)A、5(1)B、 5(2)、 6(2)、6(3) 7(1)、8(4)	3(1)、4(2)、 8(1)A、8(1)B	64.1	61.5

オ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号	通過率(%)	設定通過率 (%)	主な誤答(無答を含む)例 (かっこ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%)
1(2)	46.4	40.0	ア(27.0)、イ(11.5)、ウ(9.5)、無答(0.5)
1(3)	41.2	35.0	無答(16.0)、午前4時(11.0)、午後8時(3.0)、 午後1時(3.0)
3(1)	21.9	70.0	経済水域(49.5)、無答(10.5)、領域(3.0)
4(2)	26.8	40.0	アを選択した誤答(33.0)、イを選択した誤答(26.0)、両 方とも誤答(7.5)、無答(0.5)
7(2)	52.5	60.0	壱田永年私財法(15.0)、無答(13.5)、 奈良時代に関連する語句の記述(7.5)、 奈良時代以外の政策の記述(3.5)
8(1)A	39.2	60.0	無答(17.0)、武士(6.0)、管領(5.0)、御家人(3.0)、老 中(3.0)、鎌倉府(3.0)、摂政(2.5)、幕府(2.5)
8(1)B	25.9	50.0	無答(26.0)、執権(8.0)、老中(7.0)、幕府(3.5)、 大宰府(3.0)、武士(2.5)

- 誤答の原因として、1(2)では、南半球にある都市、東京から10,000km以上離れている都市に関する誤答が多いことから、正距方位図法の特徴についての理解が不十分であると考えられる。
- 誤答の原因として、1(3)では、無答や午前4時という誤答が多いことから、時差の正しい計算の仕方、時刻の求め方が定着していないことが考えられる。
- 誤答の原因として、3(1)では、経済水域という誤答が多いことから、領域についての理解が不十分であると考えられる。

- 誤答の原因として、[4](2)では、アを選択した誤答が多く、ユーロスターについての理解が不十分であることが考えられる。
- 誤答の原因として、[7](2)では、墾田永年私財法などの誤答や無答が多いことから、班田収授法と墾田永年私財法を混同して認識していることや、奈良時代のおもな政策についての理解が不十分であると考えられる。
- 誤答の原因として、[8](1)Aでは、無答が最も多く、[8](1)Bでは、無答や執権、老中という誤答が多いことから、執権、管領、老中を混同しており、幕府の仕組みの理解が不十分であることが考えられる。

カ 今後の指導について

内容・領域別にみた課題としては、歴史的分野「中世の日本」の学習内容の定着が挙げられる。

今後の指導においては、各時代の特色を表す資料を複数活用し、資料を正しく読み取り、読み取った事実から分かる時代の特色を自分の言葉で表現させ、歴史的事象を多面的・多角的に捉えさせる学習を取り入れることが大切である。

指導例

既習事項と資料の読み取りをとおして知識・理解の定着を図る指導 ～題材名「鎌倉幕府の成立と執権政治」～

【指導の流れ】

1 小学校の既習事項と前時までの既習事項から時代の違いを導き、学習課題を設定させる。

学習活動 平安時代と鎌倉時代の人物を挙げ、人物の身分から平安時代と鎌倉時代の違いに気づき、学習課題を設定する。



桓武天皇、藤原道長、藤原頼通、白河天皇、平清盛は平安時代の人物だったよね。

源頼朝、源義経、北条政子、北条時宗、竹崎季長は鎌倉時代の人物だったな。



人物の身分を確認して比べてみよう。何か、気付くことはないかな。



あれ？鎌倉時代は武士が多いね。つまり、鎌倉時代は武士が政治の中心となった時代ということか。では、どのようにして、武士は政治を行ったのだろう。

【平安時代】	【鎌倉時代】
桓武天皇(天皇)	源 頼朝(武士)
藤原道長(貴族)	源 義経(武士)
藤原頼通(貴族)	北条政子(将軍の妻)
白河天皇(天皇)	北条時頼(武士)
平 清盛(武士)	竹崎季長(武士)
	北条時宗(武士)

ポイント

既習事項を振り返らせることによって、平安時代と鎌倉時代の違いに気付かせ、鎌倉時代の武家政権の特色を理解したいという意欲をもたせる。

鎌倉を中心とした武士の政権は、どのような特色をもっていたのか。

2 学習課題に対して予想させる。

学習活動 課題に対して小学校での既習事項を基に予想する。



源頼朝の御恩に対して、家来の武士(御家人)は奉公を誓い、幕府のために戦うという関係があったね。



北条氏が執権として政治を行ったと、小学校で勉強したわ。

3 三つの資料をグループに分担して、資料の読み取りと説明原稿を作成させ、発表させる。



三つの資料を各グループで分担してそれぞれ読み取り、鎌倉時代の武家政権の特色を発表しよう。

学習活動

グループごとに担当した資料の説明原稿を作成し、発表する。

資料1
鎌倉幕府の仕組み図

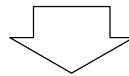
資料2
御恩と奉公の関係図

資料3
御成敗式目（部分要約）

【発表原稿作成のポイント】

- (1) 資料から読み取ることができる事実をまとめる。
- (2) 事実から分かる特色を考える。

《例》「つまり、この資料から、〇〇だったことが分かります。」



《例：資料1》

私たち〇班は、「鎌倉幕府の仕組み」について説明します。鎌倉幕府は将軍を補佐する役職として執権を置き、その執権が中央と地方の両方を統率していました。中央には、侍所、政所、問注所という、専門の仕事をする役職が置かれていました。地方の国ごとには、武士を統率するために守護が、公領や荘園を管理するために地頭が置かれました。さらに、承久の乱のあと、京都に朝廷と西国の武士を監視するために六波羅探題が置かれました。

つまり、この資料から、鎌倉幕府は武士を重要な役職につけ、全国に配置することで、幕府の力を強める仕組みをつくったことが分かります。

ポイント

- ・個人で作業する時間を設けてから、グループ活動に入る。
- ・発表を聞く生徒はメモを取ることで、本時のまとめに生かし、知識・理解の定着を図る。

4 三つの資料説明を基に鎌倉幕府の特色について、自分の言葉でまとめさせる。

個々の問題の誤答傾向からみた課題としては、地理的分野の時差の計算の技能の定着が挙げられる。

今後の指導においては、数直線などを用いて、地球上における位置関係を正しく捉えさせて時差を求めさせる指導が大切である。さらに、生活場面と関連付けて時差が生じていることをイメージさせ、時差の問題づくりをとおして学習することが考えられる。生徒が作成した時差の問題を互いに解き合い、説明し合うことで、時差と時刻を確実に求めることができるようにしたい。

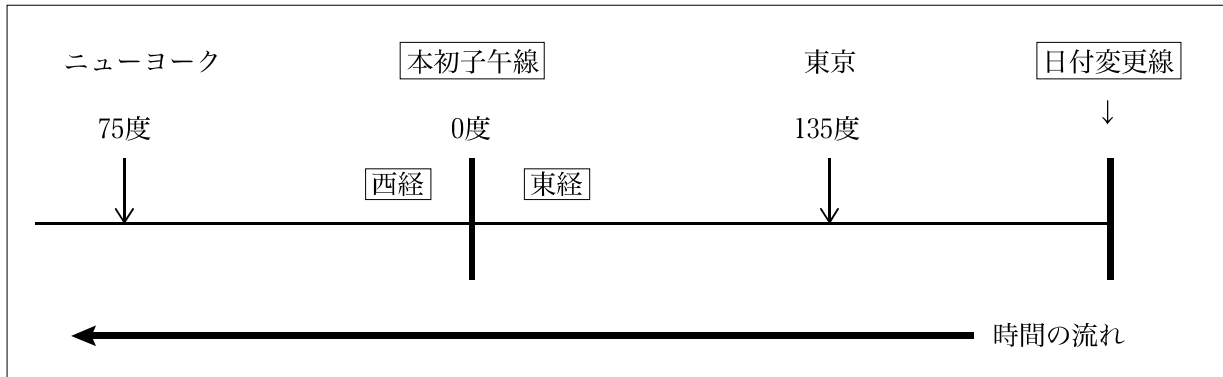
指導例

生活場面と関連付けて日本と世界との時差を捉えさせる指導 ～題材名「各国の標準時と日本の時差」～

【指導の流れ】

1 前時に学習した時差の求め方の確認をさせる。

学習活動 二つの都市の時差の求め方を復習する。



日本（東京）と本初子午線までは135度、ニューヨークから本初子午線までは75度離れているので、時差は $(135+75) \div 15$ で計算して、14時間です。



では、日本が1月1日、午前9時のときのニューヨークの日付と時刻は？

数直線を見ると矢印の方に時間が流れているから、ニューヨークは14時間遅れているので、12月31日の午後7時ね。



ポイント

次のことを確認する。

- ・経度差は東経と東経（西経と西経）は引き算、東経と西経は足し算すること。
- ・経度差を15で割ると二つの都市の時差が求められること。

2 生活場面と関連付けた時差の問題をつくらせる。



日常生活の中で、時差が違うことで、困ることにはどんなことがあるかな。



外国でスポーツの大会や試合があるときに、生中継で見たいときは、何時になるか気になるよね。

外国にいる人に、国際電話をかけないといけないときに向こうの国が何時か確かめてから電話したいわ。



生活場面と関連付けた時差の問題をつかって解いてみよう。



地図帳で経度が15で割り切れる都市を探して、日本を基準にした時差の問題を考えましょう。まずは個人で作成し、次にグループで相談して問題を決定し、考え方や答えを確認し合ひましょう。問題の確認が終わったら、他のグループと問題を交換します。

ポイント

- ・自信がある生徒は東経と西経で、自信がない生徒は東経と東経で問題を作成させる。
- ・学級の実態に応じて、基準となる都市・日時は全員同じとするか、自由にするかは教師が指示する。
- ・各自で都市を決め、時差を求める問題、時刻を求める問題の2問を作ったら、グループ活動に入る。
- ・グループの問題は、個人で考えた問題の中から決める。問題数は、学級の実態に応じて、教師が指示する。

学習活動① 学び合い学習 1

グループで決めた問題について、解き方と答えを全員が理解できるように教え合う。
作成した問題文をカードに書き、裏に計算式と答えを書く。

学習活動② 学び合い学習 2

他のグループの作成した問題を解き、ローテーションで回す。個人で解いたあと、グループ内で間違っている人や分からない人に教えて確認し合う。

ポイント

グループでの学び合い活動が成立するよう、グループの人数や生徒の実態を考慮する。

《問題例》なつみさんは、ニューオーリンズ（西経90度）にいる友だちに国際電話をかけようと思っています。日本は12月25日の午後7時です。ニューオーリンズの日付と時刻を答え、電話をかけてもいい時間か考えましょう。



《問題例》ウィンブルドンテニス（ロンドン）の決勝戦の試合が、現地時間で7月7日の午後2時に始まります。日本で衛星放送の生中継をする場合、何月何日の何時に始まりますか。



3 今日の問題づくりをとおして分かったことをまとめさせる。

《例》

- ・時差を比べる都市が東経と東経、西経と西経のように同じであれば経度の数値を引き、東経と西経のようにちがう場合は、経度の数値を足してから15で割ればよい。
- ・時差は自分たちの生活場面に関連付けて考えると、イメージしやすくて分かりやすい。
- ・世界の都市の多くは日本より時刻が遅れて進むため、本初子午線を中心とした地図上では、日本は東の端の方の日付変更線に近いところに位置していることが分かった。

活用に関する問題についての課題としては、歴史的分野の時代の特色を大きく捉える力の向上が挙げられる。

今後の指導においては、単元のまとめの時間を授業に位置づけ、各時代ごとに学習した、人物、政治、産業、文化、外交などの学習内容を整理させ、それらに関連付けて考え、共通点を見出すなど、時代を大観して自分の言葉で文章化する活動をとおして、大きな時代の特色を捉えることができるようにしたい。

指導例

単元の学習を振り返り、その時代の特色を大きく捉えさせる指導
～単元名「古代国家の歩みと東アジア世界」のまとめ～

【指導の流れ】

1 飛鳥時代から平安時代（摂関政治）の学習の中に登場した人物を挙げさせ、学習課題を設定させる。

学習活動 人物を挙げながら、飛鳥時代、奈良時代、平安時代に分類する。



今までの学習の中から、印象に残る人物を挙げてください。

やっぱり、大仏を建立した聖武天皇だな。

十七条の憲法をつくった聖徳太子でしょ。



《例》

【飛鳥時代】

聖徳太子 小野妹子
中大兄皇子(天智天皇)
中臣鎌足 天武天皇

【奈良時代】

聖武天皇 光明皇后
行基 鑑真

【平安時代（摂関政治まで）】

桓武天皇 最澄 空海
菅原道真 藤原道長
藤原頼通 紫式部 清少納言

三つの時代ごとに日本の歴史に影響を与えた人物No.1を決め、古代の特色をまとめよう。

2 グループを三つの時代に振り分け、各時代のNo.1の人物を決めさせ、その理由を考えさせる。

学習活動① 個人思考の場面1 《例【飛鳥時代】》

自分が担当する時代から、最も歴史に影響を与えた人物と理由を考えて書く。

学習活動② 集団思考の場面1

個人が選んだ人物と理由を基に、グループで話し合っ一人に絞り込む。

ポイント

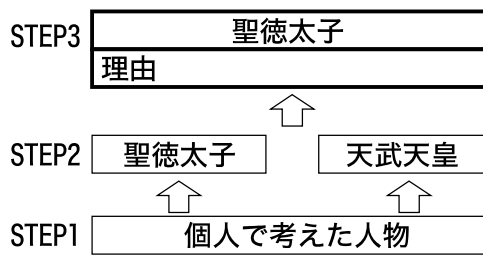
・グループ活動の手順は、以下のとおり。

STEP1：個人で選んだ人物と理由を発表する。

STEP2：日本の歴史に与えた影響について話し合い、二人に絞り込む。

STEP3：一人に決定する。理由をホワイトボード（シート）に書く。

〈ピラミッドランキング〉



3 グループごとに発表させ、各時代の人物No.1を全体で決定させる。

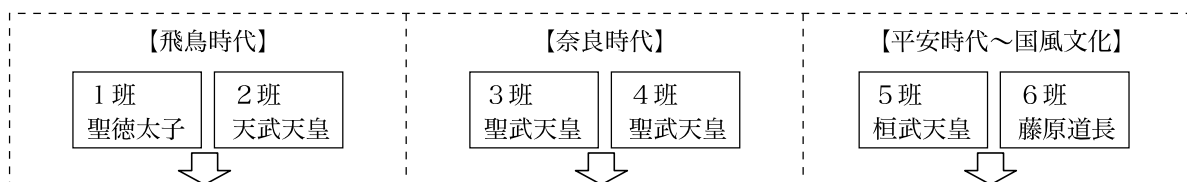
学習活動 集団思考の場面2

- ・グループで決定したことを発表し、学級で共有化を図る。
- ・同時代のグループが異なった人物をNo.1に挙げた場合は、理由を確認し、全体で話し合っNo.1を決定する。

三つの時代のNo.1をいよいよ決めるわよ。



《例》



聖徳太子

- ・天皇中心の国づくり。
- ・遣隋使を派遣し、隋の制度や文化を取り入れた。
- ・日本最初の仏教文化である飛鳥文化が栄えた。

聖武天皇

- ・仏教の力で国家を守る。
- ・東大寺の大仏、正倉院などの天平文化が栄えた。
- ・遣唐使を通して、唐の制度や文化を取り入れた。

桓武天皇

- ・政治の立て直しのため、平安京に遷都。
- ・唐から伝わった新しい仏教を保護。
- ・東北地方の蝦夷を平定。

4 個に戻し、三つの時代の人物No.1の業績や選ばれた理由から古代の特色をまとめさせる。

学習活動 個人思考の場面2

- ・根拠を示し、「古代は～～ということから、～～時代」という形でまとめる。



みなさんが選んだ古代を代表する三人が決まりました。この三人から見えてくる古代という時代はどんな時代だったのでしょうか。

三人の共通点が古代の特色ということかな。



政治や文化、外交などの視点からまとめてみようかな。



《例》

- ・飛鳥時代や奈良時代は、多くの天皇が、天皇中心の強い国をつくるために、隋や唐に学びながら、政治の仕組みや税の制度を整えた。平安時代になると、貴族（藤原氏）も力を持つようになり、政治の実権を握るようになった。だから、古代は天皇や貴族が中心となって政治を行い、日本の国づくりをすすめた時代。
- ・飛鳥・奈良・平安時代は、大陸から伝わった仏教が政治や文化に大きな影響を与えていた。だから、古代は仏教が国づくりや日本の文化の精神的なよりどころとなった時代。

キ まとめ

内容・領域についての学習状況は、地理的分野「世界の様々な地域」、歴史的分野「歴史のとらえ方」、「古代までの日本」においては概ね良好である。特に、歴史的分野「歴史のとらえ方」、「古代までの日本」は大きく改善が見られた。しかし、地理的分野「日本の様々な地域」では、基礎的・基本的な社会的事象についての知識・理解の定着は十分とは言えない。

今後は、社会的事象を地図や主題図、資料を活用して理解できるよう、適切な資料を選択し、多面的・多角的に捉えることができる授業を行うようにしたい。

評価の観点からみた状況は、「社会的な思考・判断・表現」、「社会的事象についての知識・理解」は概ね良好であり、大幅な改善がみられた。しかし、「資料活用の技能」では、地図の活用、時差の求め方の定着は十分とは言えない。

今後は、地理的分野の指導においては、地図や主題図、統計資料の読み取り方及び活用の仕方の段階を明示し、繰り返し指導を行うことで、技能が確実に身に付くような授業を行うようにしたい。

「活用」に関する問題についての状況は、概ね良好である。設定通過率を下回った問題は、地理的分野の1問のみにとどまった。

今後は、「複数の資料」から読み取ったことや社会的事象間の関連を構造化し、自分の言葉で表現する活動を取り入れた授業を行うようにしたい。